

第1章 はじめに

「工学倫理」科目のスタッフディベロップメント

プロジェクト代表者 大塚 幸一郎

(評議員、教育制度委員会学部制度専門委員会委員長)

工学部では平成 13 年度から講義科目「工学倫理」を学部 4 回生を対象に開講している。各年度とも出席者は 200 名を超えるが、平成 13 年度は 124 名、平成 14 年度は 160 名、そして本年 15 年度は 183 名の単位取得者があった。教官スタッフは必ずしも当該科目の専門家ではなく、工学部各系から講師として推薦いただいた先生方をお願いしている。さらに文学研究科の水谷雅彦先生ならびに学外から特許庁の松田一弘先生にも講義をお願いしている。ちなみに今年度の工学部講師は藤本 孝（物理工学科）、山本 悟（物理工学科）、美濃導彦（情報学科）、内山巖雄（地球工学科）、高月 紘（環境保全センター）、酒井哲郎（地球工学科）、古阪秀三（建築学科）、今中忠行（工業化学科）の先生方である。

現在「工学倫理」は産業界のみならず教育学分野からも注目を集める科目である。本学部ではいち早くこれを講義科目に取り入れたが、まだ手探りの状態である。そこで平成 13 年度～15 年度の 3 年間の経験をもとに工学倫理専門研究者を招いて講義担当教官との間で交流し、討論を行い今後の講義に指針が得られればという考えのもと「工学倫理スタッフディベロップメント」と題する計画を作成し、学長裁量経費を申請した。幸いにも採択され、計画していた公開シンポジウムを開催し、その成果をまとめたものがこの冊子である。なお参考のため平成 15 年度に講義いただいた各先生方の配付資料もあわせて掲載した。

工学倫理は、Engineering Ethics というアメリカ語の訳であり、アメリカで生まれた科目である。代表的な教科書も日本語に訳されてはいるが、日米間では工学倫理、技術者倫理のとらえ方について大きな違いがあり、アメリカでの講義内容をそのまま輸入するわけにはいかない。日本の風土にふさわしい講義内容を独自に確立しなければならない。現在日本では工学倫理について、誰が、誰に、何をどれだけ、どのように教えるかということについては、まだ十分に議論がされていない。主観的な問題であるため人によっても立場によっても、とらえ方が大きく異なっている。過去 3 年間講師を務めていただいた先生方の間にもそのとらえ方には差があるものと考えられるが、これまでは各先生方に各自のスタンスで講義を進めていただいていた。本プロジェクトによって本科目の教官スタッフの間の情報交換、討論が進み、お互いのとらえ方を知り、さらに専門家の考え方を知った上

で、次年度からの講義の進め方に反映していただき、京大版「工学倫理」の確立につながることを期待している。